

この手で守る自然と資源

このスローガンは1978年に従業員のアイデアから生まれました。
40年以上経った今も変わらず、わたしたちの使命として大切にしています。

Contents

会社概要 01

アサヒホールディングスを知る

グループ理念 02

トップメッセージ 03

第8次中期経営計画(2018-2020年度) 04

アサヒホールディングスの歩み 06

At a Glance 08

アサヒホールディングスの強み 09

アサヒホールディングスの価値創造 10

アサヒホールディングスのSDGs 12

アサヒホールディングスの事業領域

貴金属事業 14

環境保全事業 20

ESGの取り組み

G 企業統治

コーポレート・ガバナンス 26

リスクマネジメント 28

役員紹介 29

E 環境

アサヒホールディングスの環境貢献 30

環境マネジメント 32

地球温暖化防止への取り組み 33

S 社会

ワークライフバランス・ダイバーシティ 34

健康経営 35

人材育成 35

ステークホルダーとのコミュニケーション 36

グループ会社体系図 39

財務・非財務データ 40

グループシンボルマークについて

スパイラルをモチーフにしたシンボルマークは事業特徴である循環による環境保全を追求していくという企業姿勢や継続性、成長性を意味しています。また、上下に伸びる矢印は先進的で躍動的な企業であることを表現しています。青・赤・緑の3色はそれぞれが「清らかな水・空」、「人間が活動していくエネルギー」、「美しい自然や森」を象徴しています。



【編集方針】
本レポートは、アサヒホールディングス株式会社の事業の全体像や考え方を中心に、事業を通じて社会的課題にどう立ち向かい、どのような価値を生み出していくのかを、広く深く、皆さまにご理解いただくためのコミュニケーションツールとして作成しています。また、当社グループの具体的な事業内容や取り組みについても紹介することで、会社案内としての役割も兼ね備えています。

【対象期間】
2019年4月1日～2020年3月31日

【対象組織】
原則として、当社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。

【数値とグラフに関して】
記載の数値は、億円未満については四捨五入をしているため、個々の数値と合計が一致しない場合があります。
2016年度よりIFRSを適用しており、各項目名は基本的にIFRS適用後の表記としています。また、前年の2015年度よりIFRS基準での数値にて記載しています。

【将来見直しに関する注意事項】
本レポートには、当社グループの過去と現在の事実だけでなく、将来の計画や見直し、経営計画に基づいた予測が含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいて作成しています。したがって、実際の業績や活動結果は、将来の経営環境の変化によって大きく異なる可能性があります。

アサヒホールディングス株式会社

創 業：1952年7月
設 立：2009年4月
資 本 金：7,790百万円
代表取締役：東浦 知哉
本 社：〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
ニッセイ三宮ビル16F
TEL:078-333-5633 FAX:078-333-5681
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー11F
TEL:03-6270-1833 FAX:03-6270-1859
従業員数(連結)：1,574名(2020年3月31日現在)
U R L：https://www.asahiholdings.com/

アサヒプリテック株式会社

事 業 内 容：貴金属リサイクル、産業廃棄物処理およびその他の環境保全
代表取締役：中西 広幸
本 社：〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
ニッセイ三宮ビル16F
TEL:078-333-5600 FAX:078-333-5681
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー11F
TEL:03-6270-1820 FAX:03-6270-1825
U R L：https://www.asahipretec.com/

〈貴金属リサイクル事業〉

国内拠点

研究所：テクノセンター(神戸)
工 場：埼玉、長野、尼崎、神戸、テクノセンター、愛媛、北九州、北九州ひびき、福岡
営業所：札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、長野、静岡、名古屋、北陸、阪神、神戸、岡山、広島、四国、北九州、福岡、鹿児島、沖縄

関係会社

ASAHI G&S SDN. BHD.(マレーシア) 韓国アサヒプリテック株式会社
アサヒプリテックメディカルサポート株式会社

〈環境保全事業〉

国内拠点

札幌、青森、仙台、北関東、埼玉、横浜、湘南、静岡、名古屋、北陸、神戸、岡山、広島、北九州、福岡、沖縄

関係会社

JWケミテック株式会社 日本ケミテックロジテム株式会社
JWガラスリサイクル株式会社 株式会社太陽化学
富士炉材株式会社 株式会社インターセントラル



神戸本社



東京本社

アサヒアメリカホールディングス株式会社

事 業 内 容：北米金・銀精錬
代表取締役：東浦 知哉
本 社：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー11F
TEL:03-6895-1900 FAX:03-6270-1859

関係会社

Asahi Refining USA Inc. Asahi Refining Canada Ltd.
Asahi Refining Florida LLC

(2020年6月16日現在)

グループ理念

アサヒホールディングスグループは、わたしたちの信条、企業として大事にすること、社員として守ること、行動指針などを、グループ社員が共有すべき価値「アサヒウェイ」として定めています。取締役および経営幹部社員は、当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目的とした「アサヒウェイ」を率先して実践します。

アサヒウェイ

“この手で守る自然と資源”

わたしたちの信条

わたしたちは、
限りある資源を大切にし
地球の環境を保全し
人々の健康をサポートします。

わたしたちが企業として大事にすること

ステークホルダーとの協調

株主・顧客・取引先・社員・地域社会・自然環境に配慮し、信頼が得られる活動を実践する。

攻めと守りのバランスがとれたコーポレートガバナンス

意思決定の透明性を確保し
リスクを適切に管理しながら
成長戦略や事業改革を果敢に推進する。

利益なくして成長なし

企業グループ全体の成長と利益を通して
長期的な株主価値の向上を実現する。

信頼されるコーポレートブランド

クリーンな企業グループであると広く認知され
長く信頼されるブランドを維持する。

さまざまなリスクへの対応

職場の日常の安全性の確保や業務事故の防止を徹底し
各種災害への備えを確立する。

社員のモラル向上

社員の仕事と生活全体との調和を重視し
働く環境や労働条件を継続的に向上する。

強い使命感と高い倫理観

社員一人ひとりが仕事に誇りを持ち
幹部社員は強い使命感と高い倫理観を持つ組織とする。

グッド・ピープル・カンパニーの継承

善なる社員を長期に亘って大事にする。
善なる社員とは、利己主義的ではなく
自他の共栄と事業の発展を願う社員である。

わたしたちが社員として心がけること

革新と挑戦
安全最優先
高い品質の保持
素早い報告（特に悪い情報こそ早く報告）
信頼と絆

アサヒホールディングスグループ 10の規則

- 第一則 いかなる法令や規範にも違反しない
- 第二則 社会通念や自己の良心に反することを行わない
- 第三則 年齢・性別・国籍・人種・宗教などに基づく差別を行わない
- 第四則 業務に関連した場所で政治活動や宗教活動を行わない
- 第五則 お客様に不誠実な対応をしない
- 第六則 取引先の決定において公平な競争や最適な選定を妨げない
- 第七則 業務上知りえた情報を外部に漏洩しない
- 第八則 個人的な利得につながる食事や贈答品を提供しないし受け取らない
- 第九則 個人や自ら所属する組織より全体最適を優先する
- 第十則 現場・現物・現実を重視する

トップメッセージ

2019年度（2020年3月期）の連結営業利益は200億円を超え、昨年5月に公表した通期業績予想や一昨年5月に公表した中期経営計画の中間年度目標を超えるとともに、3期連続で過去最高益を更新することができました。

このような業績拡大過程において、個々の事業の市場環境の変化や内外の資源状況を見据え、間断なく事業の改廃を実行しました。その最近の事例として、本年3月に連結子会社であった株式会社フジ医療器の株式の持分60%を台湾のジョンソンヘルステック社に譲渡しました。現在は貴金属事業と環境保全事業に経営資源を集中し、それぞれのセグメント戦略の早期実現に注力しています。

2019年度は業績目標の達成とともにSDGsの推進に取り組みました。具体的には、当社のサステナビリティビジョンに基づく重点テーマを定め、各テーマの目標達成に努めました。その一環として非鉄金属業や産業資源循環業で初めてのグリーンボンド（私募債）を発行し、それによって得られた資金を活用して地球環境に配慮した施設や設備を導入しています。

また当社は、従業員一人ひとりが心身ともに健康であることを重要な経営課題の一つととらえ、「健康経営」を実践しています。法定基準を超えて充実した健康診断とその高い受診率、日々の勤務終了から翌日の勤務開始までの間隔を最低11時間とするインターバル勤務などの取り組みが認められ、経済産業省「健康経営優良法人2020」の認証を2020年3月に取得しました。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済全体の先行きは不透明であり、事業運営面で不確実性が高まっておりますが、当社はグループ一丸となってこの未曾有の社会的危機を乗り越え、事業発展とソーシャルインパクトの両面で広くステークホルダーの皆さまに報いてまいりたいと思います。引き続きアサヒホールディングスに対するご支援を賜りますようお願い致します。



2020年6月
代表取締役社長 兼 最高経営責任者（CEO）

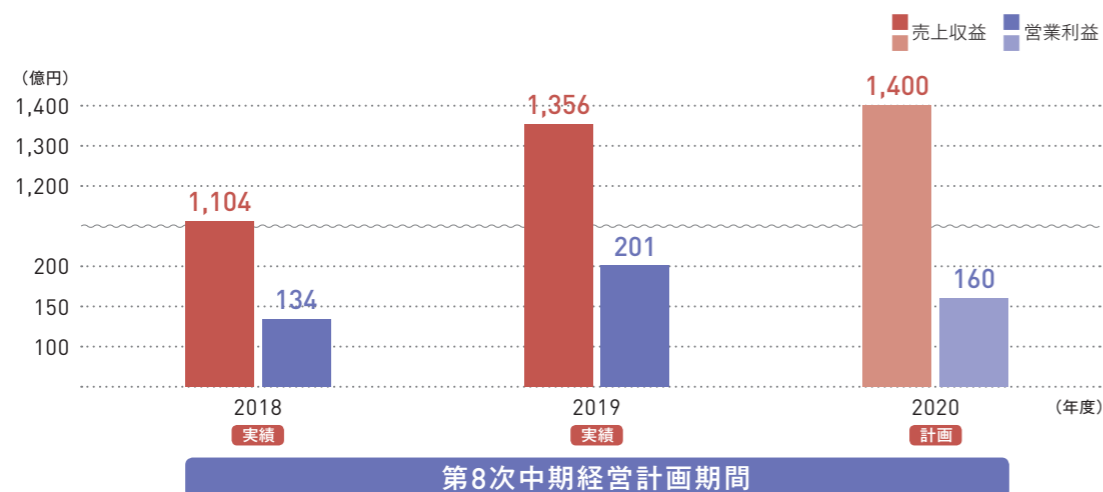
東浦 知哉

第8次中期経営計画(2018-2020年度)

スローガン

独創性と成長を追求するグローバル企業へ

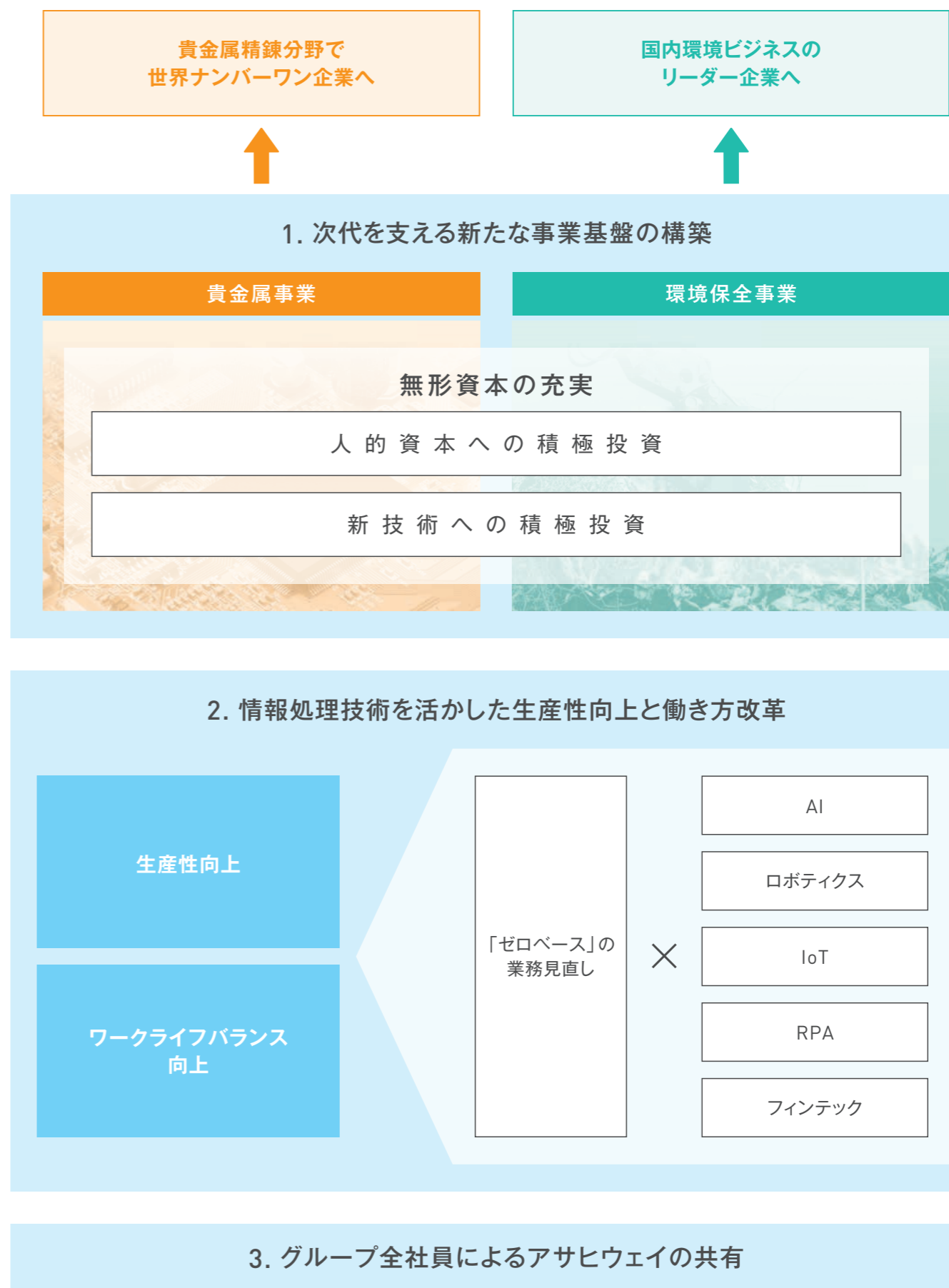
業績推移



第8次中期経営計画の進捗状況

売上収益 1,300億円	達成	3期連続の増収で目標を達成
営業利益 150億円	達成	3期連続の増益で過去最高益を更新
貴金属事業	増収増益	計画を上回る貴金属回収量と高い相場を背景に大幅な増収増益を達成
環境保全事業	増収増益	各事業会社の長をを活かしてサービスを提供する営業体制を強化し、新規案件の開拓等に努め、増収増益を達成

基本方針



アサヒホールディングスの歩み

創業からの68年の歩みは、わたしたちの革新と挑戦の歴史です。グローバル展開する企業へと発展を遂げた今も、成長を続けています。

1952	大阪市城東区に「朝日化学研究所」を創立	1999	店頭市場に株式公開
1964	株式会社へ組織変更	2000	東京証券取引所第二部に株式上場
1974	福岡営業所開設 以降全国各地へ営業所を展開	2002	東京証券取引所第一部に株式上場
1978	神戸市東灘区に本社社屋を竣工	2009	持株会社「アサヒホールディングス株式会社」を設立
1997	「アサヒプリテック株式会社」に社名変更		
1998	本社機能を神戸市中央区に移転 研究開発施設テクノセンターを神戸市西区に開設		

2012	アサヒウェイを制定 東京証券取引所ESG銘柄に選定される
2015	監査等委員会設置会社へ移行 指名委員会と報酬委員会を設置 業績連動型株式報酬制度を導入
2016	IFRS（国際会計基準）を適用
2017	新株式発行等による増資を実施
2018	アサヒウェイを改訂



第1幕 1952年 創業～

第2幕 1999年 株式公開～

第3幕 2012年 新たな発展へ～

貴金属事業

1952	写真定着液からの銀のリサイクル事業を開始
1975	小型電解回収装置「プラタ」を開発
1982	デンタル分野からの 貴金属リサイクル事業を開始
1984	メッキ分野からの 貴金属リサイクル事業を開始
1986	電子材料・宝飾分野からの 貴金属リサイクル事業を開始 小型電解金回収装置「ジバング」を開発
1994	マレーシアに ASAHI G&S SDN. BHD.を設立

2003	自動車触媒事業を開始
2006	韓国アサヒプリテック(株)を設立
2011	Eスクラップ事業を開始 精密洗浄事業を開始



環境保全事業

1972	写真廃液の無害化処理施設を神戸工場に設置
1975	神戸市の産業廃棄物処理業許可を取得 (有害物を含む写真廃液無害化処理)
1978	環境計量証明事業所の登録
1990	写真廃液以外の 環境保全事業を開始

2004	日本ケミテック(株)がグループに加わる
2006	(株)太陽化学がグループに加わる
2007	アサヒプリテック北九州事業所を設置
2008	ジャパンウェイスト(株)を設立 富士炉材(株)がグループに加わる
2009	JWガラスリサイクル(株)がグループに加わる
2010	ジャパンウェイスト横浜事業所を設置 エコマックス(株)がグループに加わる

2015	英Johnson Matthey社から 北米(米国・カナダ)の金・銀精錬事業を買収し、 Asahi Refining USA Inc.と Asahi Refining Canada Ltd. を設立
2019	Asahi Refining Florida LLCを設立

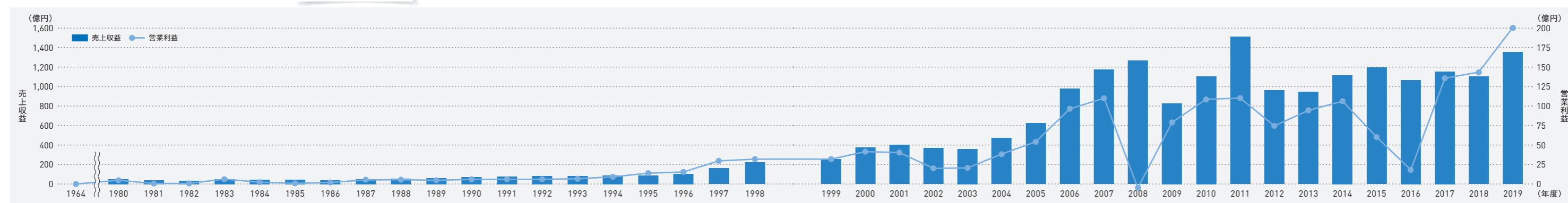
2012	(株)インターセントラルが グループに加わる
2017	日本ケミテック(株)とエコマックス(株)を ジャパンウェイスト(株)に統合
2020	アサヒプリテック(株)と ジャパンウェイスト(株)の環境保全事業を 統合



歴史の中で育んだアサヒの強み

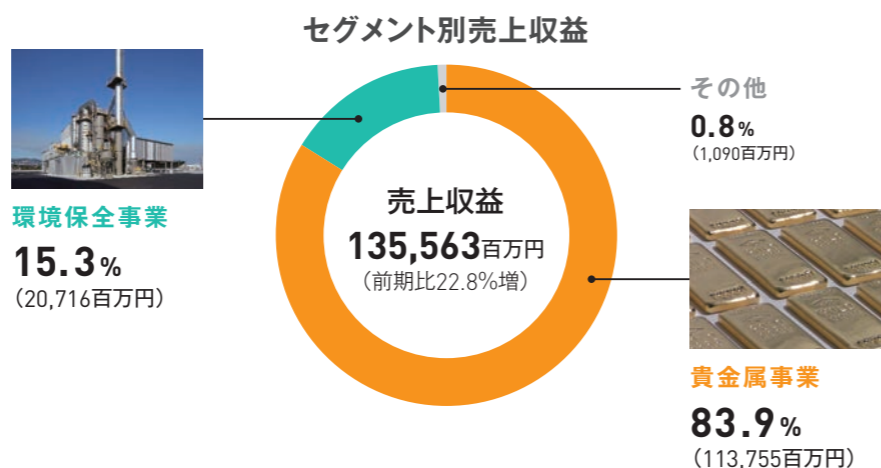
- 変化への対応力
- 事業を再生する経営力
- 業界をリードする「独自の技術」
- 信頼されるアサヒブランド
- モラルの高い社員集団
- グローバルに広がるネットワーク
- ステークホルダーとの良好な関係
- 高いマーケットシェア

業績推移



At a Glance

わたしたちは「この手で守る自然と資源」をコアミッションに、「貴金属事業」と「環境保全事業」を展開しています。シナジーを活かした効率的な経営によって、各事業の持続的な成長を目指しています。



この手で守る自然と資源

貴金属事業セグメント Precious Metals

[創業から続く事業]

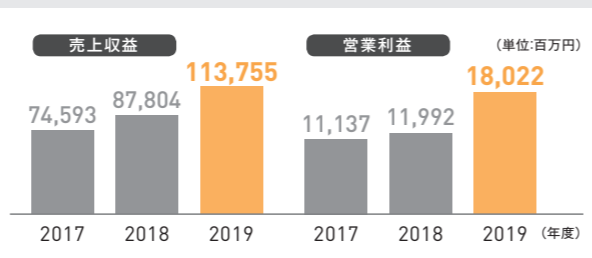
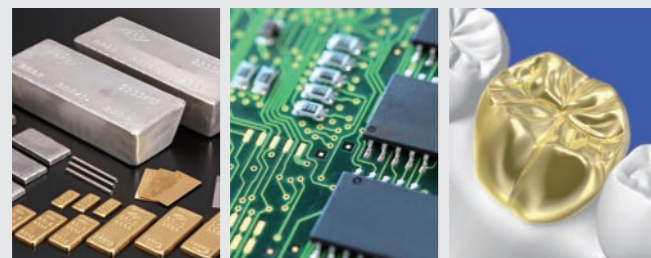
貴金属リサイクル

写真感材に含まれる銀のリサイクルから創業し、現在ではエレクトロニクス、歯科分野などさまざまな分野から排出される貴金属を含むスクラップを、高純度の製品に再生しています。時代の変化に合わせてながらも半世紀以上にわたり、リサイクル由来の貴金属を提供し続けています。

[世界トップクラスの精錬規模]

北米精錬

北米では、主に鉱山会社から入荷される金・銀の原材料の純度を高める精錬事業を行っています。また、精錬事業をプラットフォームにした収益源泉の多様化にも努めています。

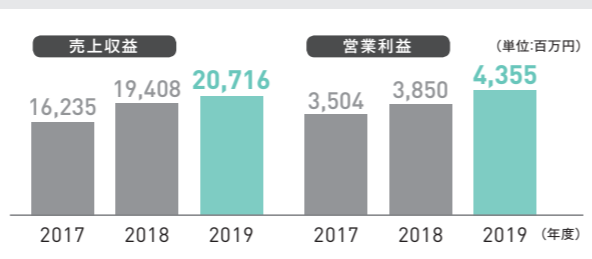


環境保全事業セグメント Environmental Preservation

[地球の持続可能性に貢献]

廃棄物適正処理

写真廃液に含まれる有害物を無害化処理する事業からスタートし、さまざまな品目の無害化・適正処理へと展開してきました。得意分野の異なる各社がM&Aによってグループとなってシナジーを生み出し、ワンストップのソリューションの提供により多種多様なニーズに応えています。



※2019年度において、ライフ&ヘルス事業を廃止したことに伴い、㈱インターセントラルを環境保全事業に移行しました。これにより、2018年度および2019年度の売上収益および営業利益は、組み換え後の数値を記載しています。

アサヒホールディングスの強み

事業基盤の強化

- 研究開発費 3.5 億円**
専門チームを立ち上げ、新技術開発を進める
- 短期ビジネススクール派遣 12 名**
次代を担う経営幹部候補を育成
- 特許出願数 (アサヒプロテック) 59 件+a**
発明考案やノウハウも含めると多数
- 健診受診率 (当社、アサヒプロテック) 100%**
法定を上回る充実した健診を実施

価値創造を支える8つのファクター

歴史の中で育んだアサヒの強み



変化への対応力

事業環境やライフサイクルに注視し、柔軟な発想と果敢な行動力、スピード感のある意思決定で、独創性のあるビジネスモデル構築や、衰退期の事業からの素早い撤退を進めてきました。この対応力によって、成長を維持し続けています。



事業を再生する経営力

過去20年間で、20社以上の会社をM&Aでグループに取り込み、経営改善を進めてきました。事業環境に合った柔軟な経営力によって、ほぼすべての会社でグループ入り前より業績を伸ばし、更なる業績向上を進めています。



業界をリードする「独自の技術」

高度な分析力と高い効率で貴金属を回収する技術、さまざまな産業廃棄物を適正に処理する技術、顧客のニーズを的確に捉えて商品開発を進める技術を誇ります。不断の研究開発により、各事業分野で「独自の技術」を磨き続けています。



信頼されるアサヒブランド

当社グループの貴金属製品は、確かな品質が世界で高く評価されています。すべての事業において、クオリティの高い製品とサービスを提供し続けることで、信頼されるアサヒブランドを築いてまいります。



モラルの高い社員集団

全社共通の価値観である「アサヒウェイ」を共有し「信頼と絆」を大切にし、「革新と挑戦」のマインドに満ちた従業員たちが成長を担ってきました。積極的に人材へ投資し、モラルの高い集団を形成し続けています。



グローバルに広がるネットワーク

1994年マレーシアに現地法人を設立して以降、韓国・中国・台湾などアジア各地に進出しました。2015年には北米の精錬事業をM&Aにより取得し、対象顧客は世界各国に広がっています。



ステークホルダーとの良好な関係

投資家との対話を積極的に行い、顧客や取引先の声に耳を傾け、ガバナンスの強化、商品・サービスの開発に活かしています。従業員はもとより地域との信頼関係を大切に、長期的な企業価値の向上に取り組んでいます。



高いマーケットシェア

顧客や取引先の皆さまに満足していただくことを第一に考え、製品・サービスの向上に努めてきました。幅広いニーズに応えることができる営業力・技術力はお客さまからの信頼を獲得し、高いマーケットシェアを実現しています。

アサヒホールディングスの価値創造

わたしたちは2つの事業を価値創造のドライバーとし、事業の成長と社会的課題の解決を実現しています。
事業活動から生み出された価値を最大化させるよう努め、「独創性と成長を追求するグローバル企業」を目指します。



アサヒホールディングスのSDGs

サステナビリティビジョン

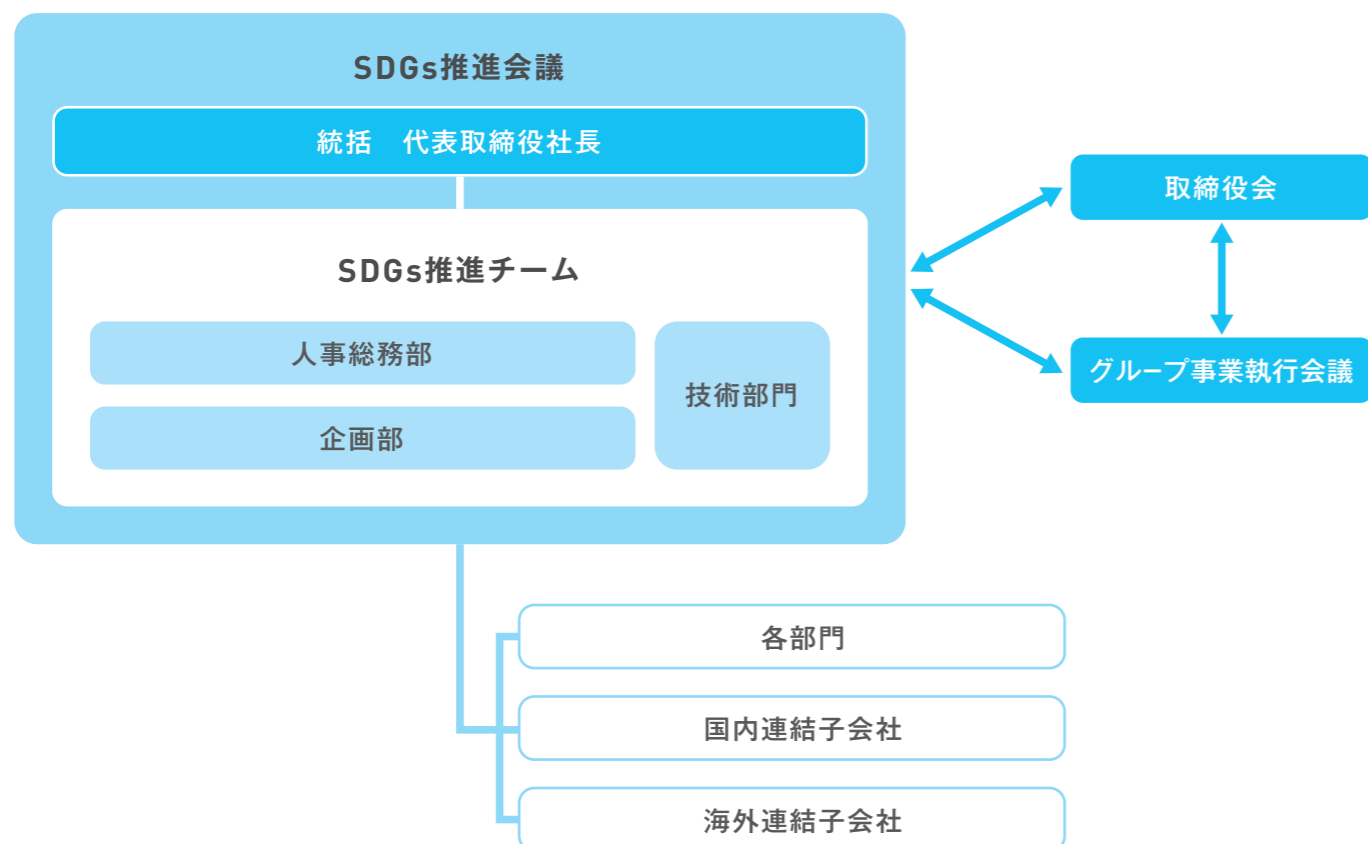
アサヒホールディングスグループは「この手で守る自然と資源」をコアミッションに掲げ、長きにわたり事業活動を展開してきました。わたしたちの事業活動は、サステナビリティ貢献そのものであり、事業の成長と社会的課題の解決の両立を実現しています。

企業を含む社会全体での取り組みが求められているいま、解決に向けわたしたちが大きく貢献すべき課題に対して、テーマ・目標を設定し達成に向け積極的に取り組むことを更なるミッションとして推進していきます。



サステナビリティ推進体制

アサヒホールディングスグループでは、SDGs重点テーマにフォーカスした施策の立案や目標達成状況のモニタリング、社内外のコミュニケーションについて、代表取締役社長統括の「SDGs推進会議」を中心に議論・決定し、サステナビリティに関する取り組みを推進しています。



SDGs重点テーマ

1 貴金属リサイクルの拡大

限られた地球資源をより一層有効に活用するために、貴金属リサイクルをグローバルに拡大・推進します。



▶ P16
P31

目標 貴金属リサイクル量の総量:2030年度 **410t**(2015年度比 1.5倍)
CO₂削減効果 :2030年度 **146.5万t**(2015年度比 1.5倍)

2 人・社会・環境にやさしい貴金属供給

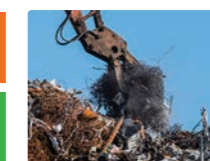
紛争鉱物を含まない原材料や貴金属含有スクラップから生産される人権や環境に配慮した貴金属製品の供給を拡大し、責任ある貴金属管理を推進します。



▶ P18

3 産業廃棄物の適正処理拡大

廃棄物処理のエキスパートとして廃棄物の適正処理拡大に努め、持続可能な循環型社会の実現に取り組みます。

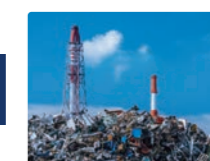


▶ P24
P31

目標 産業廃棄物の適正処理量:2030年度 **50万t**(2015年度比 1.6倍)

4 CO₂排出量の削減

各拠点での省エネ活動や次世代カーへの切替え、CO₂低排出電力プランへの切替え等を通じて、グループ全体でCO₂排出量の削減に取り組みます。



▶ P31
P33

目標 電気・ガソリンなどエネルギー由来のCO₂排出量:2015年度比 **-26%**

5 ワークライフバランスとダイバーシティの基盤充実

働き方改革・健康経営・ダイバーシティ推進等により、多様な人材が活躍できる基盤を充実させて、働きがいの向上に努めます。



▶ P34
P35

目標 インターバル勤務11時間以上達成率 :2020年度末までに **100%**
リフレッシュホリデー(連続3日以上)取得率:2020年度末までに **100%**
女性従業員における管理職比率 :2030年度末までに **男性従業員における管理職比率と同等水準**
障がい者雇用率 :2030年度末までに **2.5%以上**

6 SDGs活動の奨励・支援

個人・グループによるボランティア活動等、本業以外でSDGsに貢献する活動を「アサヒホールディングスSDGs活動」として奨励・支援します。



▶ P38